

2024年5月13日（月）全国私立通信制高等学校協会総会 会長挨拶

本日は、私通協総会にご出席を頂きありがとうございます。会長を拝命しております、東海大学付属望星高校の吾妻です。総会にあたり、ご挨拶をさせて頂きます。

本日の総会の開催に際しまして、文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐の度會友哉（わたらい ともや）様、全国高等学校通信制教育研究会事務局長の小宮山英明（こみやま ひであき）様にご多忙の中ご臨席を賜りました。誠にありがとうございます。

通信制高等学校を取り巻く昨今の状況は大きく変化する中、共通する課題に対して、多くの通信制高校の皆様と同じ方向性をもって活動する必要性から当協会は、令和4年度より組織変更を行い、令和4年度は26校、令和5年度は38校の皆様とともに活動を行いました。昨年度の活動につきまして各校の皆様にお力添えを頂きましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。さらに今年度は新たに6校の皆様にご加入頂き、44校の皆様と一緒に活動をさせて頂きたいと存じます。新たに加わって頂く皆様に心より歓迎申し上げますとともに、本協会でのご尽力をお願い申し上げます。

昨年度「私立通信制高等学校実態調査」を実施させて頂き、26の会員校と5校の非会員校の皆様にご協力を頂きました。この調査は、私立通信制高校の教育活動や経営上の実態を把握し、私学助成に関する要望活動をより具体化するために実施をさせて頂きました。皆様の学校は、それぞれで異なった、多様な学習方法を実施されておられますので、どうしてもこれらを網羅した質問項目の設定が難しい状況がございました。皆様方には、回答がしづらい部分も多くあり、回答に際して、悩ましい状況があったのではないかと思います。そのような状況の中、多くの皆様から、好意的にご回答を頂き、初めての大規模

調査が実施できましたことに、あらためて感謝申し上げます。調査結果につきましては11月に大阪で開催しました学校運営研究会において、また1月には実態調査報告書として会員校の皆様にご報告させて頂きました通りでございます。単位修得状況、非活動生徒状況、転学・退学の理由などの調査結果から、不登校など多様な生徒に対して、個々の状況に寄り添ったきめ細やかな教育を実践している実態。また教職員数、ICT教育環境の整備状況からみると、財政補助が不十分な状況下においても、教育環境の向上に積極的に取り組んでいる実態が明らかとなり、私通協会員校の教育の質向上への姿勢が明確となりました。これらの質向上の姿勢に対して、それを支えるべき私学助成は、実際の教育内容とは乖離した状況であることが、明らかとなっています。

私学助成の全日制との格差是正に向けて、私たち私通協として、行政機関各部署との意見交換や、国会議員へのアプローチを少しずつはじめております。皆様もご承知の通りの政治情勢ですので、慎重にすすめる必要はございますが、今年も私立通信制高校の教育成果と、経営の安定化への支援を訴えていきたいと思っております。そのためには、私立通信制高校において、どの様に教育の質保証を実際に行っていて、そのために経営基盤の安定が如何に重要なのか、しっかりとしたエビデンスが不可欠でございます。昨年度に引き続き、今年も実態調査を行ってまいりたいと思います。学校運営上センシティブな内容も若干あり、ご回答を躊躇されることもあると存じますが、頂いた情報が他に漏れるようなことはございませんので、是非ご協力を頂きます様お願いいたします。

先日、全国私立学校審議会連合会が、文部科学大臣に対して、広域通信制高等学校に関する問題の改善等を求める要望書を提出したとの報道がありました。要望内容を拝見すると、定通振興法の改正。通信制課程のみに適用されている特例措置の見直し。株式会社立通信制高校の制度の廃止を含めた見直し。

昨年11月に策定した通信制課程の私立高等学校の認可基準の標準例に対して、文科省が積極的に所轄庁へのフォローアップを行い、問題解決をはかること。広域通信制高校の生徒募集の是正。通信制課程の質確保・向上のための収容定員の上限規定の新設。といった要望が見られます。さらに広域通信制高校関連だけではなく、全日制高校の教育課程の在り方など、全日制における教育においても自由度を高める方策検討や国公私立学校の役割分担への議論を求めるなど、多岐に渡っています。

少子化の波が着実に押し寄せる中で、私立通信制高校の生徒数のみが、生徒数を増加している現状と比例するかの様に、通信制高校への風当たりも増している状況にあります。

通信制高校は、自由度の高い、幅の広い通信制高等学校の教育制度により、多様な教育方法が行われており、このことが、幅の広い多様な背景をもつ生徒の皆さんの「自分に合った学びを行いたい」という願いにしっかりと応えていること、そしてなにより会員校の教職員の皆様が、生徒に寄り添った親身な教育を行って頂いていることが、通信制高校で学ぶ生徒割合が急増している原因に他なりません。しかしながら、未だに、自由度の高い、幅の広い教育制度の上で教育活動を展開している通信制の教育、イコール「安易でショートカット的な学修」と受け止められている状況も多くあります。

私たち私通協は、これまで同様、全国私立通信制高等学校の充実・発展を願う立場から、文部科学省が推進する通信制の質の確保・向上に向けた「ガイドライン」や諸政策を支持する立場であることをより明確にして、きめ細かな指導・支援を必要とする多様な背景を持つ生徒に対して全人的な発達・成長を促すといった多面的な役割を担っていく教育活動集団であること。そしてその実現のために、私立高等学校等経常費補助などの私学助成において、全日制・定時制高校と同等となるよう要望活動を積極的に行っていくという、当協会

の姿勢と、会員各校の皆様が、生徒ひとりひとりの成長を願い、溢れる熱意・愛情をもって展開している日々の教育活動の状況を、私たち自身の努力によって、広く社会に理解を促すことが必要ではないかと思えます。

今年度におきましても、様々な機会を得て、これらの活動をすすめて参りたいと思えます。会員校の皆様のご尽力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。